

平成29年度一橋大学附属図書館企画展示

批判 反骨 ユーモア

新聞・雑誌でめぐる風刺画の世界



2017年 11月1日(水) ~ 30日(木) 入場無料

土・日、祝日は閉室 ただし、一橋祭期間中(24日(金)-26日(日))は9:30~17:00開室

展覧会

開室時間：10:00~17:00 土・日、祝日は閉室
会場：附属図書館展示室(時計台棟1階)

講演会

日時：2017年11月17日(金) 14:30~16:00
会場：附属図書館会議室(時計台棟1階)
講師：茨木正治氏(東京情報大学)

「新聞・雑誌漫画にみる批判・反骨・ユーモア
：近現代日本の諷刺画を手掛かりに」

アクセス

JR中央線国立駅下車南口 徒歩約10分
JR南武線谷保駅下車北口 徒歩約20分
国立駅行 バス「一橋大学」下車

お問い合わせ

 一橋大学附属図書館
HITOTSUBASHI UNIVERSITY LIBRARY

〒186-8602 東京都国立市中2丁目1
042-580-8240 <http://www.lib.hit-u.ac.jp/>



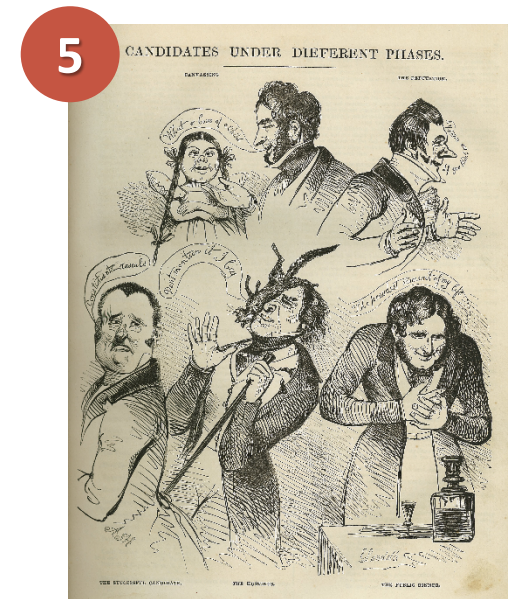
風刺画

特定の人物や、政治、社会情勢等に対する批判を、皮肉やユーモアで表現する風刺画。19世紀のフランスでは、印刷技術の発達とともに作品の大量複製が可能となり、さらに新聞や雑誌と結びつくようになることで人気が高まりました。フランスでの成功は、その後イギリスやドイツなどの周辺国に同様の紙誌の創刊を促し、その動きはやがて日本にまで波及しました。

本展では、当館所蔵の風刺新聞・雑誌を取り上げ、「検閲」、「生活」、「戦争」、「日本」の4つのテーマからさまざまな風刺画をご紹介します。展示資料からは、批判や反発をユーモアへと昇華させる画家たちの手腕、そして、反骨心を読み解くことができます。また、比較的後年の資料からは、不穏な国際情勢の中、風刺の矛先が他国に向かう傾向を見てとることができます。

本展を通じて、風刺画が描かれた当時の画家や読者が同時代をどのように捉えていたのかを知るための手がかりを得ることができるでしょう。

時代を映し出す「鏡」としての風刺画の世界にご案内いたします。



- ① Cham (Charles Amédée de Noé) (1818-1879), "Promenades au salon, par Cham. (N° 1)", *Le charivari*, 14 mai 1865.
- ② Cham (Charles Amédée de Noé) (1818-1879), "Actualités", *Le charivari*, 11 août 1865.
- ③ Henri-Alfred Darjou (1832-1874), "Actualités", *Le charivari*, 9 janvier 1865.
- ④ "The momentous question", *Punch*, October 25, 1845.
- ⑤ A.S. Henning; Ebenezer Landells, "Candidates under different phases", *Punch*, July 17, 1841.

検閲

第2章



政治的な風刺画は、政府の検閲によりしばしば押収・発禁処分の憂き目にあいました。風刺画の歴史は、検閲との闘いの歴史といってよいでしょう。本章では、検閲と関わりのある作品を取り上げます。

風刺画は、19世紀を通して、イギリスを除くほとんどのヨーロッパの国々で検閲の管理下にありました。文字を読むことができない人々にも理解できる風刺画は、その影響力の大きさ故に厳しい規制の対象となりました。その厳しさは印刷された言語への制限にまさるものであったともいわれています。デザインの前検閲を課した規制法として、1835年にフランスで成立した「九月法」があります。

事前検閲がなかった、もしくは廃止されたところでも、出版後の取り締まりは存在していました。ドイツでは、1874年以降、風刺画への事前検閲が禁じられていたにもかかわらず、「不敬罪」その他の法的規制により、押収や発禁処分が行われました。



1



2



3



4



- ① "Nächtliche Wanderungen eines gestorbenen Seniors, derzeit Gespenst", *Fliegende Blätter*, Bd. 9 (Juli 31, 1848)
- ② Thomas Theodor Heine (1867-1948) "Wie ich meine nächste Zeichnung machen werde", *Simplicissimus*, 3. Jahrgang, Nummer 34 (November 19, 1898)
- ③ Thomas Theodor Heine (1867-1948) "Dies ist das Hundevieh", *Simplicissimus*, 10. Jahrgang, Nummer 1 (April 4, 1905)
- ④ 本多錦吉郎(1851-1921)《難獣経犀》『於東京繪團團珍聞』第171号(明治13(1880)年7月31日)



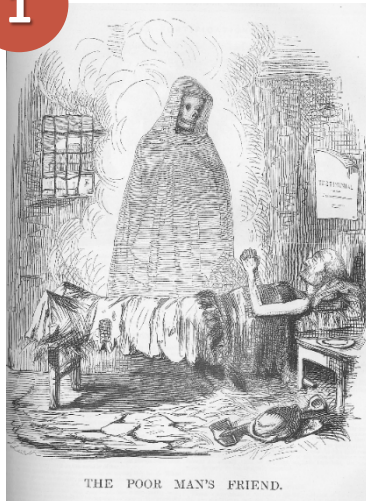
「パンチ」誌は、その優れた生活感覚とユーモア感覚で、1841年から1992年の150年もの間、人気を誇ったイギリスの風刺漫画週刊誌です。この章では本誌の中から、19世紀ロンドンに住む人々の暮らしがわかる風刺画を集めました。

「パンチ」誌の風刺画からは、「飢餓の40年代(ハングリー・フォーティーズ)」と呼ばれた1840年代に、常に病気や死と隣り合わせの生活を送る貧困者の生活や、都市人口の急激な増加によって衛生環境が劣悪化した1850年代の、どろどろに汚れたテムズ川などを見てとることができます。その視点は貧困生活者だけではなく、上流階級の人々に対しても向けられ、非実用的かつ活動に不便であることこの上ない彼らのファッションや、私腹を肥やしすぎた結果、転落人生を歩んだ鉄道王の姿などを滑稽に描き出しています。

「パンチ」誌が世界的に長寿を保った理由は、「あらゆる種類の笑いを売り物」にして、「常に弱きを助け」、「得意の風刺・皮肉」を武器に、「偉ぶっている権力者連中」の「不正や悪事を槍玉にあげる」役割を果たしていたからでしょう。

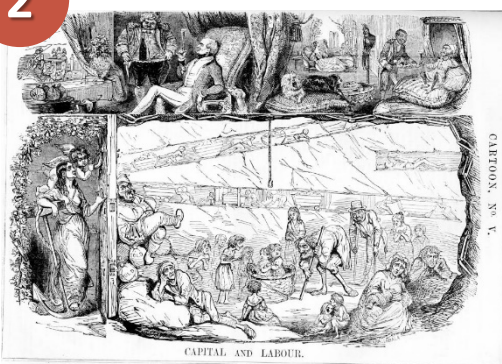


1



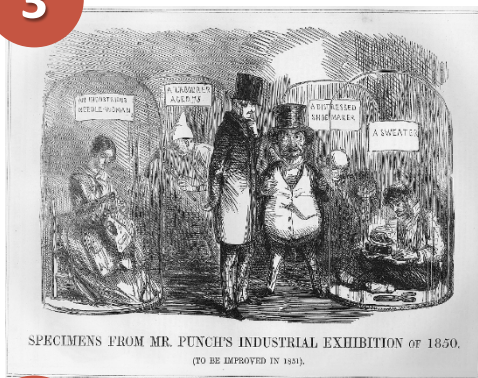
THE POOR MAN'S FRIEND.

2



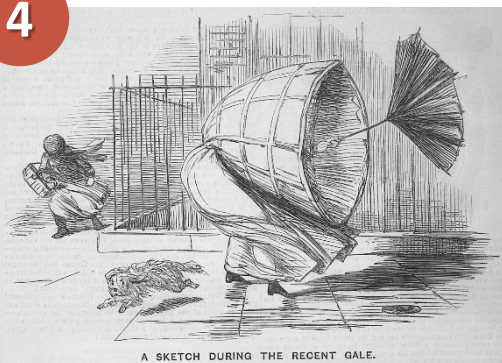
CAPITAL AND LABOUR.

3



SPECIMENS FROM MR. PUNCH'S INDUSTRIAL EXHIBITION OF 1850.
(TO BE IMPROVED IN 1851).

4



A SKETCH DURING THE RECENT GALE.

5



MR. TUCKER BORNHORN & HIS FROM HIS WIFE'S CROCHET, AND INVENTS WHAT HE CALLS HIS "PATENT ANTI-GAROTTE OVERCOAT," WHICH PLACES HIM COMPLETELY OUT OF H-ASN'S REACH IN HIS WALKS HOME FROM THE CITY.

6



OFF THE RAIL.

7



THE LONDON BATHING SEASON.
"COME, MY DEAR!—COME TO MY OLD FRIENDS, AND HAVE A nice BATH!"

- ① John Leech(1817-1864), "The poor man's friend", *Punch*, vol. 8, February 22, 1845.
- ② Robert Jacob Hamerton "Capital and labour", *Punch*, vol. 5, July 29, 1843.

- ③ "Specimens from Mr. Punch's industrial exhibition of 1850", *Punch*, vol. 18, April 13, 1850.
- ④ "A Sketch during the recent gale", *Punch*, vol. 31, December 20, 1856.
- ⑤ Charles Samuel Keene (1823-1891), "Patent anti-garotte overcoat", *Punch*, vol. 31, December 27, 1856.
- ⑥ John Leech (1817-1864), "Off the Rail", *Punch*, vol. 16, May 12, 1849.
- ⑦ "The London bathing season", *Punch*, vol. 36, June 18, 1859.

戦争



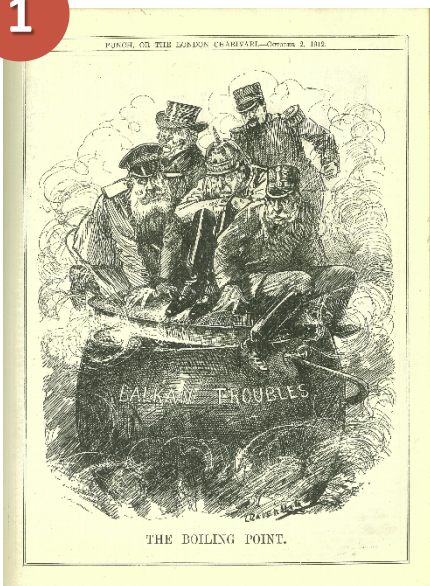
本章では、戦争を主題にした風刺画を取り上げます。とくに、1914年から1919年にかけて起こった第一次世界大戦にまつわる作品に焦点を当てます。

第一次世界大戦は、当時ヨーロッパの火薬庫と呼ばれていたバルカン半島で起こったサラエヴォ事件に端を発します。オーストリア＝ハンガリー帝国の皇位継承者の暗殺が火種となり、ドイツ、オーストリアを中心とする同盟国と、イギリス、フランス、ロシアを中心とする連合国に分かれ、ヨーロッパ全土を巻き込んだ戦いが起こりました。この戦争では、初めて戦場に戦車や飛行機が登場し、毒ガスによる攻撃も行われました。その後、1918年にドイツで革命が起こり、連合国側が勝利をおさめます。翌年、パリ講和会議のヴェルサイユ条約締結をもって終戦を迎えました。

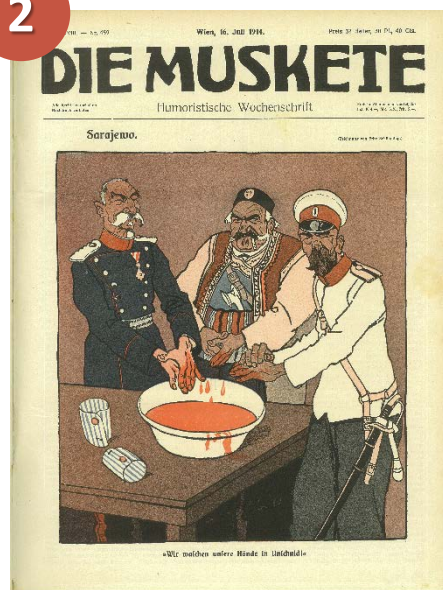
戦争を主題にした風刺画は、笑いや批判よりも、敵国に向けた皮肉と敵意にあふれています。



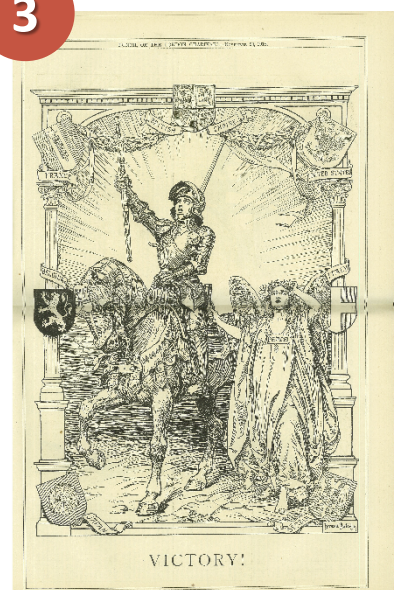
1



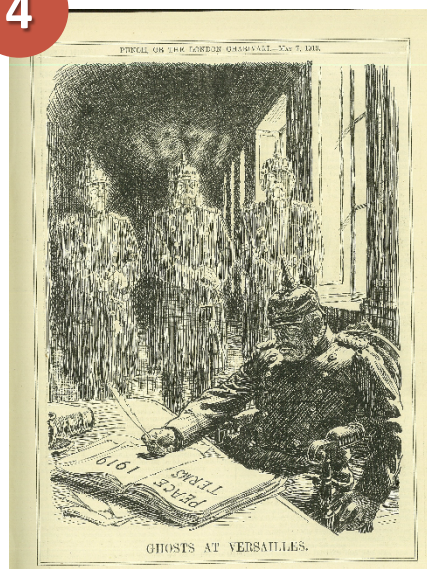
2



3

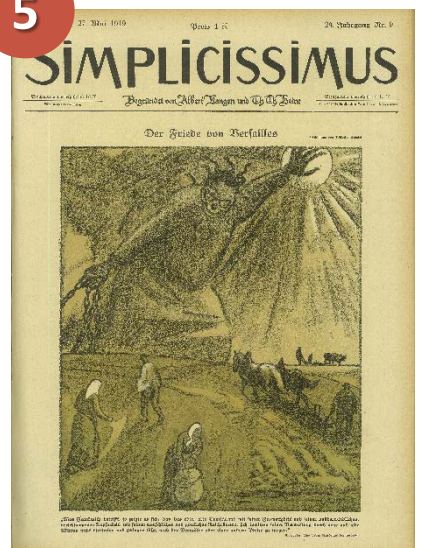


4



- ① Leonard Raven-Hill (1867-1942), "The boiling point", *Punch*, vol. 143, October 2, 1912.
- ② Fritz Schonpflug (1873-1951), "Sarajewo", *Muskete*, Bd. 18, Nr. 459, Juli 5, 1914.
- ③ Bernard Partridge (1861-1945), "Victory!", *Punch*, vol. 155, November 20, 1918.
- ④ Bernard Partridge (1861-1945), "Ghosts at Versailles", *Punch*, vol. 156, May 7, 1919.
- ⑤ Wilhelm Schulz (1865-1952), "Der Friede von Versailles", *Simplicissimus*, 24. Jahrgang, Nr.9, Mai 27, 1919.

5





これまでヨーロッパを中心とした風刺画を見てきましたが、本章では日本の風刺画に目を向けます。江戸幕府は、日米修好通商条約(1858年)をはじめ、イギリス、フランス、ロシア、オランダと修好通商条約を結び、5港を開港して外国人の居住と貿易を認めました。こうして形成された外国人居留地からは、様々な西洋文明が日本に広がっていきました。また、大志を抱いて欧米に渡航し直接西洋文明に触れて帰国した日本人や、招かれ、あるいは、自ら新天地を求めて来日した外国人によって、さまざまな西洋の文化が日本にもたらされました。風刺画もまた、そのような広まりの中で、政治的、社会的激動の時代を背景に発展していきました。

ここでは、一橋大学附属図書館の明治文庫に所蔵する資料を中心に、幕末から明治前期の風刺画をご紹介します。



- ①《西洋戯画ポンチ之圖》『江湖新聞』第2集(慶應4(1868)年閏4月7日)
- ②安達吟光(1853-1902)《「大日本頓智研法」下賜の図》『頓智協会雑誌』第28号(明治22(1889)年2月28日)
- ③《神戸よりきたりはんじものうつし》『横濱新報もしほ草』第16篇(慶應4(1868)年[旧暦]6月5日)
- ④長原孝太郎(1864-1930)《維新の志士と今の大官》『めさまし草』巻之18, 明治30(1897)年6月
- ⑤本多錦吉郎(1851-1921)《民犬黨吠》『於東京繪團團珍聞』第146号(明治13(1880)年2月7日)
- ⑥小林清親(1847-1915)《思想の積荷》『於東京繪團團珍聞』第530号(明治19(1886)年2月6日)

- ⑦《なかるべし其借財返済の法は如何その返済の策は如何》『横濱新報もしほ草』第32篇(明治元(1868)年[旧暦]12月16日)
- ⑧《神戸よりきたりはんじものうつし》『横濱新報もしほ草』第18篇(慶應4(1868)年[旧暦]7月28日)



参考文献

※【】内は一橋大学附属図書館の請求記号です。

- ・飯倉章『第一次世界大戦史：諷刺画とともに見る指導者たち』中央公論新社、2016年（中公新書；2368）【0800:25:2368】
- ・石子順『カリカチュアの近代：7人のヨーロッパ風刺画家』柏書房、1993年
- ・茨木正治『メディアのなかのマンガ：新聞—コママンガの世界』臨川書店、2007年【7200:644】
- ・小池滋編『ヴィクトリアン・パンチ：図像資料で読む19世紀世界』柏書房、1995-1996年【2330:85】
- ・清水勲『漫画の歴史』岩波書店、1991年（岩波新書；新赤版 172）【0800:33:新赤172】
- ・清水勲編『ワーグマン日本素描集』岩波書店、1987年（岩波文庫；青559-1）【0800:32:D/621】
- ・高木勇夫「カリカチュアの黄金時代：19世紀フランスの政治と社会」『名古屋工業大学紀要』55巻、2003年、51-63頁、
<http://ci.nii.ac.jp/naid/40006264784>
- ・高橋憲夫、石塚正英編『諷刺画像（カリカチュア）のヨーロッパ史：フックス版』柏書房、1994年
- ・野村正人『諷刺画家グランヴィル：テキストとイメージの十九世紀』水声社、2014年【7200:946】
- ・林田遼右『カリカチュアの世紀』白水社、1998年【7200:228】
- ・原田乃梨子「ミュンヘンの「赤い番犬」：諷刺誌『ジンプリツィシムス』の形式的側面について」『学習院史学』40号、2002年、96-110頁 <http://hdl.handle.net/10959/1831>
- ・福井憲『世紀末とベル・エポックの文化』山川出版社、1999年【2300:323】
- ・町田市立国際版画美術館『ラ・カリカチュール：王に挑んだ新聞』町田市立国際版画美術館、2003年【7200:361】
- ・松村昌家編『パンチ素描集：19世紀のロンドン』岩波書店、1994年（岩波文庫；青563-1）【0800:32:D/632】
- ・宮下健三『ミュンヘンの世紀末：現代芸術運動の源流』中央公論社、1985年（中公新書；758）【0800:25:758】
- ・宮原信「ラ・カリカチュール」とはどんな新聞か（1/2）『神奈川工科大学研究報告. A, 人文社会科学編』21巻、1997年、53-67頁
<http://kw.kait.jp/opac/TD00010874>
- ・宮原信「ラ・カリカチュール」とはどんな新聞か（2/2）『神奈川工科大学研究報告. A, 人文社会科学編』22巻、1998年、47-67頁
<http://kw.kait.jp/opac/TD00010883>
- ・宮原信「ル・シャリヴァリ」紙の変貌（1/2）：1835年九月法成立の前後『神奈川工科大学研究報告. A, 人文社会科学編』23巻、1999年、67-87頁 <http://kw.kait.jp/opac/TD00010901>
- ・宮原信「ル・シャリヴァリ」紙の変貌（2/2）：1835年九月法成立の前後『神奈川工科大学研究報告. A, 人文社会科学編』24巻、2000年、31-58頁 <http://kw.kait.jp/opac/TD00010906>
- ・木本至『団団珍聞「驥尾団子」がゆく』白水社、1989年【069:6】
- ・山口順子「ヴァンリードの新聞『もしほ草』官許をめぐる：書誌データと史料による考証」『メディア史研究』18号、2005年6月、64-85頁【ZK:226】
- ・山口順子「明治前期「滑稽諷刺新聞雑誌」のエポック」山本武利責任編集『新聞・雑誌・出版』ミネルヴァ書房、2005年（叢書現代のメディアとジャーナリズム）、80-111頁【3610:2430】
- ・吉野孝雄『過激にして愛嬌あり：滑稽新聞と宮武外骨』筑摩書房、1983年（ちくまぶっくす；50）【069:50】
- ・Escholier, Raymond (1965). *Daumier et son monde*. レイモン・エスコリエ著、幸田礼雅訳『ドーミエとその世界』美術出版社、1980年【Pc:767】
- ・Goldstein, Robert Justin (1989). *Political censorship of the arts and the press in nineteenth-century Europe*.
ロバート・ジャスティン・ゴールドスティーン著、城戸朋子・村山圭一郎訳『政治的検閲：19世紀ヨーロッパにおける』法政大学出版局、2003年【3160:604】
- ・Wirgman, Charles; compiled and annotated by Jozef Rogala; translations by Hitomi Yamashita, *The genius of Mr. Punch : life in Yokohama's foreign settlement, Charles Wirgman and the Japan punch, 1862-1887*. Yurindo, 2004. (チャールズ・ワーグマン[著]、ジョゼフ・ロガラ編集・解説、山下仁美解説・翻訳『Mr.パンチの天才的偉業：チャールズ・ワーグマンとジャパンプンチが語る横浜外国人居留地の生活1862-1887』有隣堂、2004年)【2106:34】

◆◆◆以下の新聞はオンラインでも読むことができます◆◆◆

- ・*La caricature* <http://digi.ub.uni-heidelberg.de/diglit/caricature>
- ・*Fliegende Blätter* <http://www.digizeitschriften.de/de/dms/toc/?PPN=urn:nbn:de:bsz:16-diglit-35697>
- ・*Punch* <http://digi.ub.uni-heidelberg.de/diglit/punch>
- ・*Simplicissimus* <http://www.simplicissimus.info/index.php?id=5>



平成29年11月1日発行
一橋大学附属図書館

〒186-8602

東京都国立市中2-1

TEL:042-580-8240

FAX:042-580-8232

